

令和3年度伊勢崎市多文化共生キーパーソン会議からの意見

多文化共生まちづくりの推進に向けて、今年度の会議で意見交換した内容をまとめてあります。

■ 多文化共生について

- ・日本人と外国人が歩み寄って、お互いの文化などの違いを知り、理解し合うことが多文化共生である
- ・多文化共生の実現には、生活レベルでのトラブルをできるだけ起きないようにしていくことが重要である

■ 多文化共生キーパーソンについて

- ・キーパーソンとして外国人住民のために実行できることはしたいため、市からキーパーソンにしてもらいたいことがあれば積極的に協力をお願いしてほしい
- ・会議で出た意見を踏まえて、キーパーソンに何をしてほしいのか具体的に提案してほしい

■ 交流について

- ・日本人が外国の文化を体験できるイベントがあれば良い
- ・母国の言語を日本人に教えていきたい
- ・外国人は日本人の中に、日本人は外国人の中に入っていくことが大切である

■ 地域と生活マナーについて

- ・外国人住民が自ら生活マナーを学んでいくことが大事である
- ・外国人住民と日本人住民がごみの出し方などの生活マナーについて学べる交流会があれば良い
- ・日本人住民と外国人住民のお互いが日本と外国の「生活習慣の当たり前」を知らないことからトラブルに繋がることが多い
- ・市内で家を購入する外国人が増えており、地区との関わりを持つことが多くなったため、町内会の決まりごと等を翻訳してしっかり教えないと、外国人住民だけではなく周りの日本人住民もお互いに困ってしまう
- ・それぞれ異なる地区のルールを外国人にどのように伝えたらよいか大きな課題である。
- ・地域には外国人住民と日本人住民の橋渡し役となれる人が他にもいるため、その方達を通じて地域の情報やルールを外国人住民に伝えられるとよい

- ・各種行政団体等が集まる場にキーパーソンが出向き、情報共有することも大事である

■ 外国人総合相談窓口について

- ・ベトナム人の市民が増えてきたため、相談窓口にベトナム人相談員がいるとよい

■ 外国人住民向けの情報発信について

- ・ホームページの自動翻訳機能で訳された翻訳文は理解できる人もいれば、理解できない人もいるため、言語別で専用のページをつくった方が見てくれる
- ・翻訳では伝えたいポイントだけを絞って、文章を短くしたほうが伝わりやすい
- ・SNSによる情報発信は多くの人達に早く情報が行き渡るが、その反面、間違った情報を発信してしまうと信用を失ってしまう危険性がある

■ 新型コロナウイルスについて

- ・新型コロナウイルスになったら、どのような症状が出るのかをしっかりと理解させてあげた方が外国人は日頃の感染防止に取り組む
- ・新型コロナウイルスに感染した時の症状を動画にして伝えるのが効果的である
- ・新型コロナウイルスに感染した時はどうすればいいのかといった情報があるとよい